

「さしつかえありません」

「取水口が花室川の河口に面しているのですが、花室川の汚水が気になりますか」

「取水口は近日中に湖の中心に移る予定になっておりません」

とにかく水道部は浄水を県から買っているだけで、湖の浄化や、水質に関しては、権限がないということだ。

「将来人口の増加は予想されますが現在の買入量で足りるのでしょうか」

「現在でいっぱいなので、人口が増えればすぐに足りなくなります。しかし足りないからといってすぐにふやしてもらうわけにはいかないのです。国が水利権をもっているのです、そこから買わなければなりません」

なるほど、それが国が行なっている霞ヶ浦開発事業の資金の一部になるのだと思う。堤防のかさ上げ工事をするために三一五億かかるという。水を買うということとは結局その費用の一部を負担するということになる。飲料水、農業用だけに使用するならば、今までのままで足りるはずなのに、悪名高い水門閉鎖をして水量をふやすのは、何のためだろうか。そのための費用を分担し、水を汚し、水道料も高くなるとなれば、何とも割りきれない思いがする。水道料はと料金表をみると、工業用水の方

が家庭用水より安い。霞ヶ浦は、一部の企業のためにあるのだろうか。霞ヶ浦周辺に住む人々のためにあるのだろうか。

そこで今度は市役所の開発課に行って話を聞く。ところが土浦市では国の霞ヶ浦開発事業については、詳しいことは知らない、知りたければ、県の開発課に行ってくれという。この調子なら水戸に行っても、県の事業だから東京まで行って聞いてくれといわれそうなので、県に行くことは止めにする。霞ヶ浦の汚染について知りたいという、それなら公害課へと案内してくれた。ここで霞ヶ浦の汚染の原因を聞く!!

「霞ヶ浦の汚染は何が原因でしょうか」

「主に生活排水ですね。家畜の排水も多いのですが、これはなかなか実状がつかみにくいのです。規制も三十頭以上豚を飼ってゐる所ということになっているので、零細な養豚が多いわりに、取り締まれないのです」

「工場排水はどうですか」

「工場の排水は割合からいうと少ないのです」

「工場排水の検査はどうなっているのですか」

「工場排水の検査は、人員と検査方法の点で、年に一回できればよい方です。検査員は三人ですが、保健所の方の仕事もあるので手がまわらないのです」